

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

新システム（T-LINES3）のサービスと業務処理システム

1. 図書館情報サービス

今回の「図書館情報処理システム」の更新は「図書館情報サービス」と「図書館業務処理システム」を2本の柱として行われた。

「図書館情報サービス」は従来からの「蔵書検索サービス」、「データベース検索サービス」と、今年2月から試行サービスを開始した「電子ジャーナル検索サービス」とを総合するものとして構築した。これらを総合した情報サービスは、書誌・所在情報、論文情報の検索、文献入手（全文データ、文献複写）を学内LAN(SuperTAINS, TAINS88)を介して可能とした。（現在、一部開発中）

現在提供している情報サービスのそれぞれの特徴は、次のとおりである。

- (1) 「蔵書検索サービス」は、学内で所蔵している図書館資料の書誌・所在データを情報検索に提供している。検索機能のインターフェースとしては、インターネットを利用したWWW(World Wide Web)版、Telnet版と利用者専用端末版(X window版)に対応させている。
- (2) 「データベース検索サービス」は、商用のデータベース(OVID社等)を導入し、学内LANを介して研究室から直接、または図書館のホームページから利用できる。
- (3) 「電子ジャーナル検索サービス」は、商用の全文データベース(Ees = Elsevier Electronic Subscriptions)の物理学分野50タイトルを導入し、学内LANを介して試行的に提供している。
- (4) 「図書館ホームページ」(<http://www.library.tohoku.ac.jp/>)においては、図書館からの「お知らせ」、新着図書案内、図書館カレンダー、上記サービスや各大学の

検索システム、国際機関等へのリンクサービスを行っている。

(※(2),(3)の対象者は学内の利用者に限られる。また、(2)は有料である。)

2. 図書館業務処理システム

1) ハードウェア

更新前のシステムのハードウェアは汎用機と専用端末で構成され、ハードウェア、ソフトウェアの拡張やサービスの拡張ができない、という欠点があった。

今回の更新ではオープンシステムの考えを採り入れ、サーバ(ワークステーション)のOS(基本ソフトウェア)をUNIXとし、端末をパソコン(OSはWindows95)とする構成とした。

サーバは「業務サーバ」、「情報サーバ」、「アプリケーションサーバ」の構成とし、サーバへの負荷の分散を図った。

- (1) 「業務サーバ」はRDBMS(Relational Database Management System)であるOracle7(Oracle社)を搭載し、業務処理の基幹を構成している。
- (2) 「情報サーバ」は蔵書検索サービス、図書館ホームページのサービスを行っている。
- (3) 「アプリケーションサーバ」は配下にパソコンを接続し、日常業務の処理、処理されたデータを「業務サーバ」へ送る役割を担っている。

また、「パソコン」には日常業務の処理機能に加え、業務を補助する電子メール、ワープロ、表計算機能を今回新たに備えた。日常業務の処理にはWindows上で動くX windowソフトを導入した。

今回の更新で特に考慮した点は、情報サービスの拡大化を配慮して、記憶装置の大容量化を図った。インターネットの普及や学内でのサービスにおいても画像データが多くなる傾向にあり、記憶装置の大容量化が必要であった。

2) ソフトウェア

業務処理ソフトウェアはメーカー提供のパッケージソフトウェアをカスタマイズした。機能としては以前のものを踏襲しつつ、新たに追加、修正を加え、GUI(Graphical User Interface)によるわかりやすく、使いやすいシステム構築を目指した。

(1) 蔵書検索サブシステム

蔵書検索サービスの基幹部分をなし、資料の所在、利用の可否、新着情報の提供を行っている。

(2) 図書管理サブシステム

図書の受入れ、登録、支払いを行っている。今回、新たに学内 LAN を介しての教官からの「図書の発注依頼」(開発中)機能が追加される。

(3) 雑誌管理サブシステム

雑誌の受付け、製本、支払いを行っている。また、雑誌の書誌・所在情報の登録・管理を行っている。

(4) 目録管理サブシステム

図書(単行本)の書誌・所在情報の登録・管理を行っている。

(5) 閲覧管理サブシステム

図書館資料の貸出・返却処理を行い、資料の所在を管理している。

(6) ILL管理サブシステム

文献複写の依頼・受付業務を行い、今回、新たに学内 LAN を利用した「文献複写依頼申込み」(開発中)機能が追加される。

(7) その他

システムの管理、ファイル管理の機能がある。

3. あとがき

今回の「図書館情報処理システム」の更新は“図書館の電子化”や“電子図書館化”が叫ばれる直前のことであったが、情報サービスと業務処理とを総合したシステムとして、また、「電子図書館」への第一歩として構築できた。

今後、利用者の多様なニーズに応えるため、図書館の内部評価、外部からの評価を参考にし、情報サービスと業務処理システムの“図書館総合システム化”すなわち「電子図書館」に向けて、また、東北大学としての“情報政策”を確立する必要がある。

(システム管理掛)



蔵書検索サービス



図書館ホームページ



データベースサービス



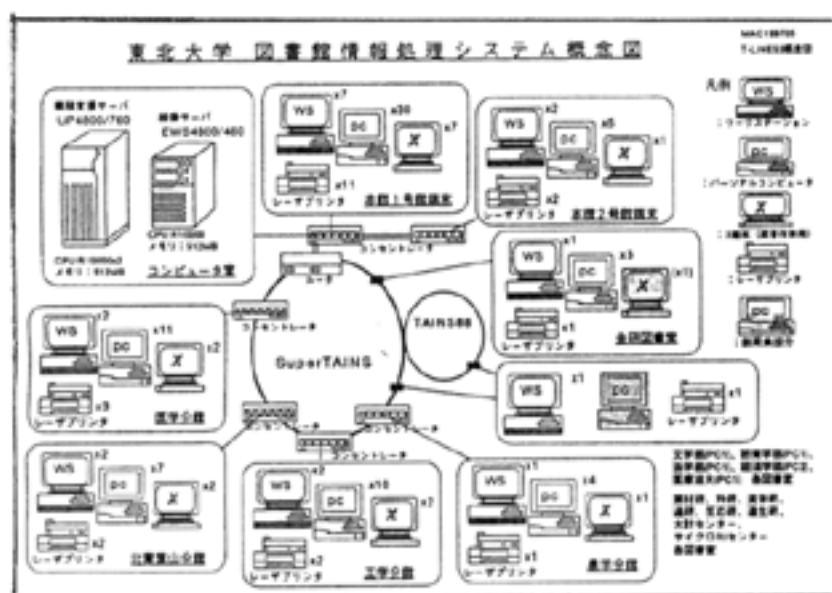
各検索サイト



電子ジャーナル



業務処理システム



データベース

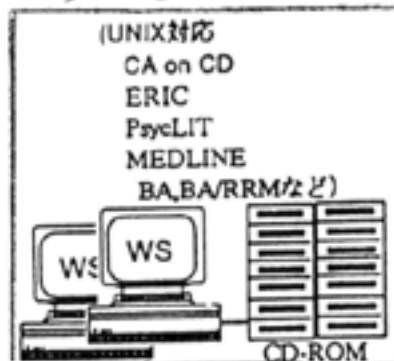


図 附属図書館情報サービス・業務処理システム概念図

医 学 分 館

医学分館事務長 村 岡 徹

医学分館は医学部、歯学部、加齢医学研究所、及び各附属病院、医療技術短期大学部がある星陵地区のほぼ中央に位置しております。したがって、これらの学部等の学生、各部局の研究者、医療関係者を主たる利用対象者としており、医学・歯学関係主題にまたがる専門図書館といえます。

現在の図書館は昭和59年1月に竣工したもので、濃いアイボリーのタイル張りで外装された清楚な建物は、星陵地区メディカルセンターのシンボルにふさわしいものとなっております。

本学が創設されてから8年を経た大正4年医科大学が開設され、それにともない医科分館の呼称のもとで附属図書館の分館として設置されました。昭和32年に医学部分館に改称されました。その後、医学部のみならず歯学部・抗酸菌病研究所（現加齢医学研究所）等多くの部局を対象とする部局の枠を越えた規模と機能を持つに至り、これまでの医学部分館の名称は実情にそぐわなくなったので、昭和47年医学部分館を「医学分館」に改称し今日に至っております。

施設としては、一階をメインフロアとし、カウンター、新着雑誌コーナー、レファレンスルーム、情報管理検索室を配置し、利用の接点と位置づけ、全館開架、ワンポイントチェックで利用することができます。2階は欧文誌を主に配架し、研究閲覧室、個室等を配置している。3階は辞書辞典コーナーを介して和文誌、学生用図書が配架され、隣接して60の閲覧席を配置しております。そのほか視聴覚室、特別閲覧室、古書貴重書庫等があります。2、3階には集密

電動書架を設置し利用頻度の少ない資料を配架しています。閲覧座席数は327席、所蔵能力は42万冊、エントランスを除く全フロアをカーペット敷きとし、閲覧机、椅子等は全て木製家具に統一し、静謐で重厚ななかに快適な空間になっています。

自然科学系図書館の蔵書の特色は雑誌が大きなウェイトを占めることですが、医学分館も例外ではありません。当館では開設当初から外国雑誌の重複を制約するなど、所謂「中央化方式」を実施するとともに1920年創刊の“The Tohoku Journal of Experimental Medicine”によって国際交換を積極的に推進することにより資料の収集をはかった結果、今日の特色ある蔵書を形成することになりました。

当初の蔵書数は約35千冊に過ぎませんでした。昭和30年には約11万冊余、平成9年3月末現在では391,240冊（和漢書153,266冊、洋書237,974冊）、逐次刊行物の年間受入数は3,650種（和文誌1,315種、欧文誌2,335種）、年間増加冊数（平成8年度）8,219冊になっています。

図書館サービスにおいては、1階メインフロア中央に新着雑誌（当年分2,495タイトル）を展示配架、これを囲むように情報検索コーナー、索引誌・抄録誌等の二次資料、カウンターを配置し、利用者の文献情報に対する多様なニーズに対応出来るよう配慮しております。情報検索としては、Medline, EMBASE, Current Contents, 医学中央雑誌等が常時利用することが出来ます。開館時間については入退館管理システムを導入し、平成6年5月から利用時間を

24時まで延長して利用者の要望に応じております。

昭和53年には、文部省から大阪大学附属図書館生命科学分館、九州大学附属図書館医学分館とともに、医学・生物系外国雑誌センター館として指定を受け、主として国内未所蔵外国雑誌を収集し、全国の大学、研究機関からの文献複

写申し込みに応じています。

図書館は今大きな変貌期にきており、その一つとして図書館の電子化があげられ、当館もその推進にむけて本館と協力し、質の高い図書館サービスを提供出来るように努力して行きたいと考えています。

(むらおか・とおる)



東北大学記念資料室企画展

『水彩画で綴る昭和30年代の風景－東北大学と仙台－』

記念資料室 永 田 英 明

東北大学記念資料室では、これまで収集された本学に関する歴史的資料をもとに、毎年企画展示会を開催しております。今年度は、『水彩画で綴る昭和30年代の風景－東北大学と仙台－』を開催することになりましたので、お知らせいたします。

展示いたします水彩画は、元第二高等学校教授・東北大学教養部助教授の玉虫静氏（1902～1995）が、本学を含む仙台・松島の風景を昭和37（1962）年にまとめられたものです。川内・青葉山地区への移転を中心とした大学総合整備計画、高度経済成長の波を受けた都市再開発を目前に控えつつも、古い面影をいまだ色濃く残

した本学および仙台市内の風景が、計150点余におよぶ画集として鮮やかなカラーで綴られており、当時の状況をうかがう資料としても、極めて貴重なものです。

今回の展示会では、これらの内の主なものを、当時の写真等の関連資料とあわせて展示し、戦後から現代への過渡期である昭和30年代の雰囲気を感じていただきたいと思います。当時を知る方にとっては懐かしく、また当時を知らない方々にとっても、現在から一昔前に迫る糸口として、同様にお楽しみいただけるものと思います。日程は下記の通りとなっておりますので、ぜひご来室下さいますよう、ご案内いたします。

記

日 時：平成9年10月24日（金）～31日（金） 午前10時～午後4時

※25日（土）・26日（日）両日も開催いたします。

場 所：東北大学記念資料室 2階展示室

※片平キャンパス内、正門より徒歩2分

問合せ：217-5040まで



◀ 附属図書館

「くめどつきせぬ知識の泉」

※大正14年完成後、昭和48年の川内地区移転まで使用された。現在は記念資料室として改修使用。

平成9年度システム地域講習会の開催について

附属図書館では学術情報センターとの共催で、毎年システム地域講習会を開催しております。この講習会は、学術情報センターにおいても開催していますが、受講機会の拡大を図るため、全国10の地区で開催されているものであります。

本年度は、目録システム（図書コース、雑誌コース）講習会（目録システム業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術の講習）、ILL講習会（相互貸借業務担当職員にILLシステムの運用方法及び端末操作等に関する知識・技術の講習）並びにNACSIS-IR講習会（代行検索担当者及び情報検索サービス利用者に知識・技術の講習）の4つの地域講習会を対象としています。会場は、端末機を装備している本館2号館の研修室を利用して行われ、講習期間が1～3日間の間に、それぞれの講習会の

「システムの概論」、「端末操作解説」、「システムの実習」の科目をカリキュラムに沿って、本館・分館の職員が講師・講師補助者となって、これまでの業務上の経験並びに最新の情報に基づき、受講者に懇切丁寧に分かりやすく講義・実習を行っています。

受講生は、東北地区の大学、研究機関及び公立の図書館から推薦された図書館職員で、各講習会12名ずつが参加して行われました。

それぞれの講習会とも講師等の熱心な指導と受講生のまじめな受講姿勢が相俟って充実したものとなり、受講生からは感謝の意を述べた感想が寄せられております。

末筆ながら、担当された講師等の方々及びご協力いただいた館員各位に心からお礼申し上げます。

〔総務課〕



熱心な受講風景



修了証書が交付された

平成9年度目録システム地域講習会（図書コース）を受講して

金属材料研究所 後 藤 浩 子

6月11日から13日までの3日間、東北大学附属図書館2号館において標記講習会が開催された。国立・私立大学および高専から計12名の受講者と5名のオブザーバーの参加があった。

各講師の講義と指導の下、「目録システム概論」に始まり、「検索総論・実習」「登録総論・実習」等のカリキュラムに沿って、講習は進められた。目録を体系的に勉強できる機会は数少ないとあって、失敗しながらも目録作成に励む姿や、講師に熱心に質問する姿も見受けられた。中には、朝、講義が始まる前に端末の前に座り、前日の復習をする参加者もいた。

私は目録に関しては初心者同然であったが、目録業務何十年(?)の方々を始め、様々な経歴の方々と机を並べて勉強する時間を持てたこと自体、有意義な経験であったと思う。

最終日には受講者の希望により本館内の見学の時間が設けられ、他大学等からの参加者に特に好評を博したようだ。

最後に各講師の方々と、受講者のお世話をしてくださった関係者の皆様にお礼申し上げます。

(ごとう・ひろこ)

平成9年度目録システム地域講習会（雑誌コース）を受講して

工学分館整理運用掛 山 本 衆 子

標記講習会が7月30日～8月1日の3日間にわたり、本館で開催された。これは学術情報センターと東北大学附属図書館との共催によるもので、受講者は秋田大学・岩手大学・山形大学・会津大学・仙台電波工業高等専門学校から各1名、東北大学から7名の計12名である。

1日目は、学術情報センター半沢講師による「目録システム概論・基準」次いで阿部講師「端末操作解説・実習」菊地講師「検索概論・実習」が行われた。2～3日目は、前田講師による「登録総論」「登録実習Ⅰ～Ⅳ」が行われた。

講習会是一通りの説明だけでなく、実習で出

た質問が次の講義でフィードバックされるなど、実例による深みを与えてくれる、とても有意義なものでした。この講習会で雑誌書誌作成の基本となる考え方、ルールを学べた事は、普段曖昧で判断しにくかった諸々の問題解決ばかりでなく、画面の情報から何を読みとるかという点でもとても勉強になりました。

最後になりましたが、お忙しい中を御指導下さいました講師の皆様、お世話下さいました関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

(やまもと・しゅうこ)

平成9年度ILLシステム地域講習会を受講して

附属図書館情報サービス課 相互利用掛 菅 原 淑 子

標記講習会が梅雨あけの7月28日と29日の2日間にわたり本館2号館の会議室及び環境がすっかり整ったシステム研修室において開催された。山形、秋田の各地図書館と東北学院大図書館からあわせて7名、そして東北大学図書館、分館の5名、合計12名の受講者があつまり、緊張した中で自己紹介をする事から始まった。講習は「ILLシステム概論」「目録検索」「複写業務、貸借業務の基本操作」そして応用操作へとカリキュラムに沿って進行した。受講者の中には現在ILLシステム業務に携わっている者が多い中、これからILLに参加する機関から派遣されてきた者がいるという構成で、教える側の苦勞が忍ばれた。でも講師の方の努力や補助者の方の丁寧な教えのおかげで、和気あいあいの中で有意義な講習会になったと思う。

毎日ILLの仕事をしていても自分の分担をこなすのが精一杯なので、改ためて全体の流れ

をつかめ、頭の中が整理できた思いであった。また、ああこんな事もできるのか、こんな方法もあるのかと新しい発見もあり、今後の仕事にいかしていく努力をしたいと思う。

ILLシステムが今後浸透していくにつれ、ますます増える件数を少しでも要領よく迅速にこなす努力をする反面、それぞれのニーズにできるだけ丁寧に対応したいという相反する事の中で、毎日の業務に追われているのは私ばかりでなくILL担当者の悩みであると思う。

ILLシステムをより良いものにするには、依頼する側のマナーが大事との講師のお話にそうそうと頷く受講者が多かったと思う。

最後になりましたが講師の方々、補助者をしてくださった方々、そして留守を守ってくださった掛の方に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(すがわら・よしこ)



平成8年度参考図書購入報告

参考図書類（文部省参考図書購入費，本学共通経費，川内地区部間共通費等）により平成8年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

◆和 漢 書◆

1. ブリタニカ国際大百科事典 第1～19巻，総索引，地図帳
2. 中国書籍総目録 第57～60巻
3. 角川日本姓氏歴史人物大辞典 第20，22巻
4. 会社年鑑 1996年 上場会社版 上・中・下巻
5. 近代雑誌目次文庫 第26巻～28巻
6. 国立国会図書館蔵書目録 平成3年～7年 第1編 法(1.2) 第2編 経済・産業(1.2)
7. 民国時期総書目 1911年～1949年 政治(上・下)，自然科学
8. 20世紀文献要覧大系 第28，29巻
9. 日本書籍総目録 1996 書名編第1～3巻，著者索引編
10. 雑誌記事索引集成 明治・大正・昭和前期，第41～60巻

◆洋 書◆

1. Books in Print, 1996-1997. Vol. 1-9
Books in Print Supplement, 1995-1996. Vol. 1-3
Books in Print Subject Guide, 1996-1997. Vol. 1-5
2. British Library General Catalogue of Printed Books, 1988-1989. Vol. 25-28
3. Contemporary Authors: a Bio-bibliograph. 149-153
4. Deutsche Biographische Enzyklopädie, Bd. 1-4
5. EBSCO's Serials Directory, 10th ed. Vol. 1-5
6. Encyclopaedia Indica, Vol. 1-10
7. Les Livres Disponibles, 1997 Titres 1-2, Auteurs 1-2, Sujets 1-2
8. National Faculty Directory, 1997 Vol. 1-3
9. Publishers Trade List Annual, 1995 Vol. 1-2
10. Who's who in America 51th ed. Vol. 1-3

◆その他主な継続受入資料◆

1. 国立国会図書館所蔵洋図書目録
2. 国立国会図書館国内逐次刊行物目録
3. Commonwealth Universities Yearbook.
4. The Europa World Yearbook.
5. IBN: Index Bio-Bibliographicus Notorum.
6. Internationale Bibliographie der Rezensionen Wissenschaftlicher Literatur.
7. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur.
8. International Who's Who.
9. Ulrich's International.
10. Verzeichnis Lieferbarer Bücher: German Books in Print.

会 議

◎学 内

9. 7.10 平成9年度分館長会議

○協議事項

- (1) 平成9年度図書館資料費予算(案)について

○報告事項

- (1) 平成9年度図書館運営費(共通経費)について
- (2) 平成10年度概算要求について
- (3) 第28回国立大学図書館東北地区協議会について
- (4) 第44回国立大学図書館協議会総会について
- (5) 国立大学附属図書館に関するヒアリングについて
- (6) 施設の将来構想に関する検討委員会について
- (7) 各分館の状況について

9. 7.17 平成9年度川内地区図書委員会

○議 題

- (1) 平成9年度学関用図書費等の分担について
- (2) 平成9年度特別図書購入計画について

9. 7.16 平成9年度附属図書館商議会

○協議事項

- (1) T-LINES 次期システム検討委員会について
- (2) 電子情報データベースサービスに関する検討委員会委員の選出について

○報告事項

- (1) 平成9年度図書館資料費の配分について
- (2) 平成9年度図書館運営費(共通経費)について
- (3) 平成10年度概算要求について
- (4) 施設の将来構想に関する検討委員会について
- (5) 第28回国立大学図書館東北地区協議会について
- (6) 第44回国立大学図書館協議会総会について
- (7) 各分館からの報告について

◎学 外

9. 6.25～ 6.26 第44回国立大学図書館協議会
総会 (於：京都市)

編 集 後 記

暑い夏も終わりを告げようとした8月31日、ダイアナ元皇太子妃が交通事故で亡くなるというショッキングなニュースがながれ、あのダイアナスマイルが偲ばれるところであります。

学内では、教育研究組織の充実・発展と行財政改革に対応し、事務組織の抜本的な見直しを行うための委員会が設置され、事務の一元化・集中化並びに事務職員の再配置や事務組織の統

合・集約化等について検討が行われており、図書館においても熱心に取り組んでいるところがあります。

本号では、「新システム(T-LINES3)のサービスと業務処理システム」の内容を掲載いたしましたので是非御利用いただきたく、また、分館紹介をシリーズとして取り上げましたので、利用者のお役にたてればと思います。(F)

東北大学附属図書館館報「木這子」 第22巻第2号(通巻79号) 発行日 平成9年9月30日

発行人 辻 英雄 広報委員長 谷内 聡

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910